

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【熊本県】

1 実践テーマ	【パラリンピアンによる講話及び実技体験】
2 実施対象者	第5学年 39名 第6学年 27名 袋中学校1～3年生 約90名（講演のみ）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ オリンピック・パラリンピックによる講話及び実技体験教室 ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	○オリンピック及びパラリンピアン（トップアスリート）の講話や実技指導体験教室を通して、運動することの楽しさを体感することや自分の目標に向かって粘り強く挑戦していこうとする心情を育むとともに、東京オリンピック・パラリンピック等に関する興味や関心を高める。
5 取組内容	（1）事前学習 ○道徳（第5学年・2時間） ・～より高い目標に向かって～『世界に羽ばたく「航平ノート」』（ねらい）体操で金メダルを獲得した内村航平選手が取り組んだ夢の実現に向けた努力を通して、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成には何が必要かを考え、自己評価しながら、困難や失敗にくじけずに努力しようという心情を育てる。 ・～くじけない心～『ライバルは自分自身』（ねらい）ロンドンパラリンピックゴールボール日本代表浦田理恵選手の困難を乗り越えた人の生き方を通して、自分も高い目標を目指し、粘り強く努力しようとする意欲を高める。 ○道徳（第6学年・4時間） スポーツを通して、生き方を学ぼう ・～感謝の舞い～『こだわりのイナバウアー』（ねらい）フィギアスケート金メダリストの羽生結弦選手の演技に臨む姿勢を通して、自分の存在は、多くの人々の支え合いや助け合いによって成り立っていることを理解し、尊敬と感謝の念で応えていこうとする態度を養う。 ・～国際理解・国際親善～『国を超えた文化交流』

	(ねらい) 柔道を世界に広めるために渡米した山下義韶さんの生き方を通して、柔道が世界スポーツになった経緯を知り、我が国の伝統と文化に対する誇りを胸に、国際理解、国際親善に努めていこうとする態度を養う。 ・～自然愛護～『チョモランマ清掃登山隊』 (ねらい) 登山家の野口健さんがチョモランマなどで行っている清掃活動への思いを考えることで、自然の偉大さを知り、自然環境の大切さについて考えを深める。 (2) パラリンピアンとの講話・交流（１時間） ・視力を失い、ゴールボールと出会い、夢に向かって努力されたパラリンピックメダリスト小宮正江さんのお話を聞く。 (3) パラリンピアンの実技指導・体験教室（１時間） ・パラリンピックメダリスト小宮正江さんにご指導いただき、児童及び職員が、実際にゴールボールの競技を体験した。 (4) 事後学習 ○講話及び実技指導・体験教室を振り返って（１時間） ・講話及び体験教室を振り返って感想をまとめた。また、講師の小宮正江さんにお礼のお手紙を書いた。
6 主な成果	○実際にパラリンピアンの方からお話を聞いたり、競技を体験したり、メダルに触れたりしたことで、オリンピック・パラリンピックに対する憧れと親しみの気持ちを持つことができた。これらの活動を通して、オリンピック・パラリンピックがこれまで以上に身近な存在になり、新聞記事やテレビ等の報道に興味関心を持ったり、自分が体育の授業や社会体育等で取り組んでいる競技と重ねて夢を描いたりする様子が見られた。
7実践において工夫した点（事業の特色）	○年間を通して、道徳等の学習内容との関連を図った学習を進めた。 ○図書室にオリンピック・パラリンピック関係のコーナーを設置し、日頃から児童の興味・関心を高めることができた。 ○保護者及び隣接する中学校にも、講話等の参加を呼びかけた。また、活動内容を学校だより・学級通信等で発信した。
8主な課題等	○対象学年のみの活動となり、他学年に広めることができなかった。 ○小中学校共用の体育館のため、前日からの競技の場づくりができず、限られた時間での事前準備が大変であった。
9来年度以降の実施予定	○今後も、講話や実技体験教室等を実施していく。

